

弘前大学 人文学部 経済学科

本誌56年1月号の会員近況欄で「いま知的生産に関することがブームなので、私の研究室も知的生産の行ないやすいように机や椅子などの備品や勉強道具などを改良している」というようなことを書いたことがあります。それから4年たった現在は、オフィスオートメーションがブームだそうです。そこでまた、わが研究室でもできるだけオフィスオートメーション化をやってみようかと考えました。

2年ほど前に導入したPC8801を使って自分の行動スケジュールをパソコンに管理させるプログラムを卒業研究がてら学生に作成させました。一応こちらの要望どおりのプログラムができたのですが、実際これを使って自分のスケジュールを管理しようという気にはなりませんでした。

というのは、やはり今までどおり、カレンダーや手帳に書きこむほうがずっと能率的であることがわかったからです。手帳なら常に持ち歩けるので、書込みや修正がいつでもどこでもできます。それによく考えてみると、パソコンで管理するほど私の日常生活は複雑ではないのです。ほとんど毎日学校へきて研究室に1日中いるという定型的な生活パターンを送っているのですから。

予算管理のプログラムも作らせました。教官1人当りの年間研究費は、備品・消耗品などすべてを含めて約30万円ぐらいです。年度はじめに均等に配分されるこの予算に対して、毎回の支出内容をパソコンにインプットし、使用状況を分類整理させ、逐次、残額の使途の指針にしようと思図したものです。しかし、これまた使う気になりませんでした。個人レベルの予算の使途状況は金銭出納帳につけたほうが早いからです。しかし、たった1人で教官数24名からなるわれわれの学科全体の支出状況を整理・分類・記録している教室勤務の女性には、この予算管理プログラムは比較的役に立っているようです。

これらのことからわかったのですが、要するに組織体のオフィスオートメーションには、すばらしい威力を発

揮するコンピュータも、個人レベルのオフィスオートメーションのために使用するには、現在のところ必ずしも能率が上がるというわけではないようです。その理由はデータのインプットが面倒であること、速度が遅いこと、もち運びが不便であることなどです。

このようなことから、はじめ計画していた文献検索システムも、作成する気がなくなりました。文献整理は学科レベルでやるなら効果があると思いますが、個人レベルでは、やや不確かでも自分の頭に頼るほうが総合的にはまだ能率的ではないかと思えます。また、成績処理システムも一時は作ってみようかと思いましたが、受講者が20~30名という私の生産管理論の講義には不要に思えます。

以上のようなオフィスオートメーション化は有効に機能するにいたりませんでした。ワープロは役に立っています。それと、最近入れたパーソナルコピー機も重宝しています。

ところで研究室のオフィスオートメーション化を行なう究極の目的は、研究や教育の能率を上げることだと思います。とすれば勉強の効率が悪く、あきっぽい性質の私にとってのオフィスオートメーション化というのはむしろ次のようなサポートシステム

○勉強にあきのこなくなるように支援してくれるシステム

○勉強に自然に集中させてくれるシステム

○仕事のとっかかりを与えてスムーズに仕事に入ってゆけるように支援してくれるシステム

そしてさらに

○能率的にもものを理解できるよう支援してくれるシステム

○アイデアを出しやすくしてくれるシステム

ということになります(が、ちょっと甘えすぎかもしれません)。(黒須誠治)